

当院の血液透析患者の抜針事故防止の取り組み ～テープ固定の強度を検証して～

医療法人財団 はまゆう会 新王子病院

○柳亜紀 渡辺貴子 大谷麻岐 渡辺千代子 箆島明彦 瀬川賀世子 田中孝夫

【はじめに】

当院では、H25年5月～7月に6件の抜針事故が起きた。テープ固定に問題があるのではないかと考え、テープの強度を検証し抜針事故防止に取り組んだ。

【目的】

テープ固定の強度を検証し抜針事故防止に取り組む

【方法】

テープ固定のみと、フィルム剤を併用した状態で、貼用直後、2時間後、4時間後に血液回路をばね秤で引っ張り、テープが剥がれる力を測定する。また、どちらもシーネ固定を密閉した状態と通気性良く開放した状態での固定強度の比較も行った。

【結果】

貼用から4時間後の評価では、フィルム剤の有無に関わらず4kgの張力でテープが剥がれた。シーネを密閉した状態では強度が低下した。シーネを開放した状態では4kgの張力でテープが剥がれた。検証後テープ固定の不徹底による抜針事故が1件あったが、再指導後は起きていない。

【考察】

Ω固定はフィルム剤と同等の強度が保たれていることから有用と思われる。

検証後にテープ固定の不備による抜針事故は1件あったが、再指導後に抜針事故は起きていない。抜針事故防止にΩ固定の徹底が必要であると考えられる。

【結論】

Ω固定で十分な強度が保たれていることから、Ω固定の徹底が重要といえる。